

一般国道9号（東伯中山道路）の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 XIX

鳥取県東伯郡琴浦町

NO TSU U BA GA DANI
窺津乳母ヶ谷第2遺跡Ⅱ

2007

鳥取県埋蔵文化財センター
国土交通省 倉吉河川国道事務所



遺跡遠景（南から）



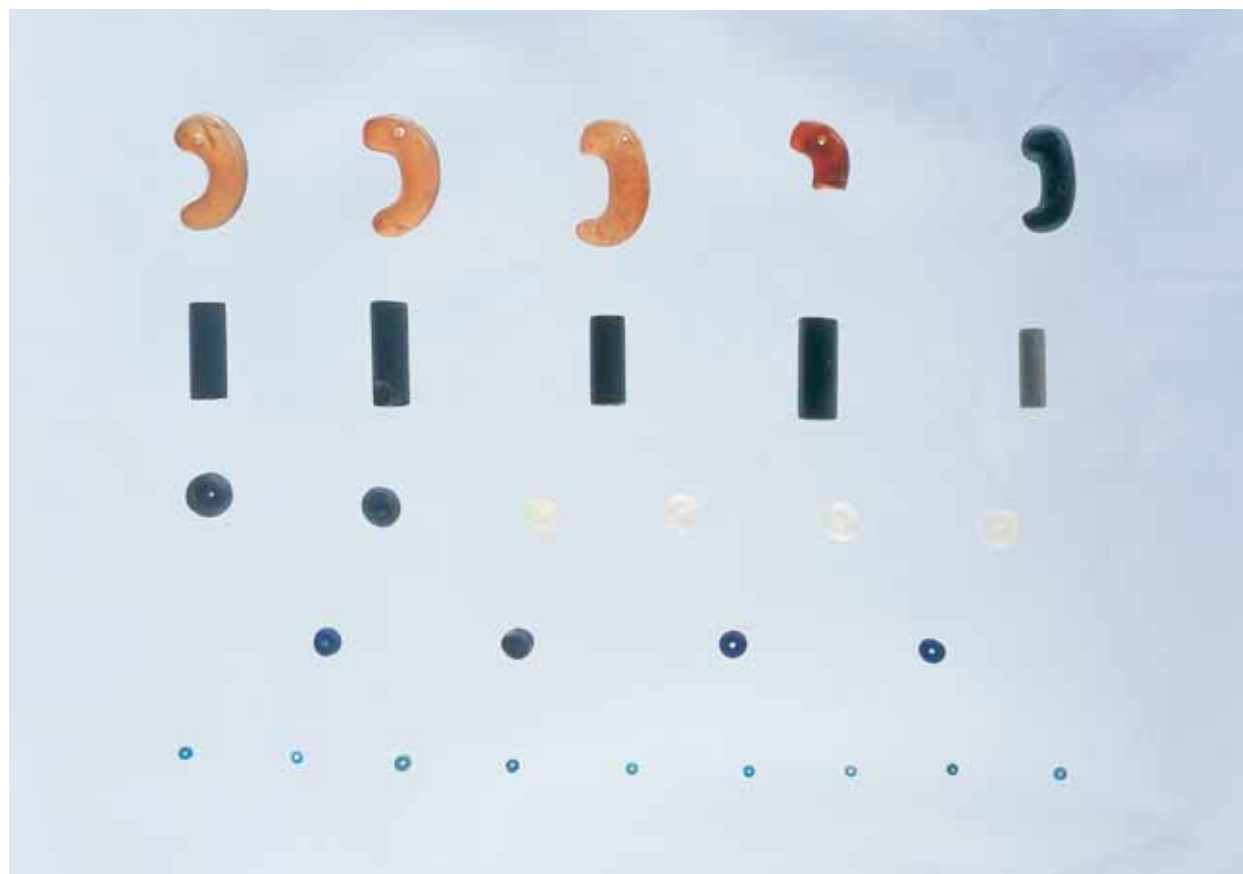
1区近景（東から）



玉類出土状況



1. 玉類集合 (1)



2. 玉類集合 (2)



1. SS7鍛冶炉・炉壁・羽口出土状況（北東から）



2. SS7鍛冶炉土層断面（北から）



鍛冶関連遺物



1. S19遺物出土状況（西から）



2. S19甕172出土状況（西から）



3. S13炭化材検出状況（東から）

序

近年、鳥取県では妻木晩田遺跡、青谷上寺地遺跡をはじめとする古代の重要な遺跡の発見が相次いでおり、当時の集落の姿や暮らしの様子が具体的に語られるようになりつつあります。

先人が残した素晴らしい遺産を後世に伝承することは、現在に生きる私たちの重要な責務です。

現在、県内においては、山陰自動車道の整備が着々と進められているところですが、当センターは、国土交通省からの委託を受け、この事業に係わる一般国道9号（東伯中山道路・名和淀江道路）の改築に先立つ埋蔵文化財の発掘調査を実施しました。

そのうち、琴浦町にある笹津乳母ヶ谷第2遺跡では、古墳時代の鍛冶工房や玉類など、この地域の歴史を解明するための重要な資料を確認することができ、このたび、調査結果を報告書としてまとめることができました。

この報告書が、今後、郷土の歴史を解き明かしていく一助となり、埋蔵文化財に対する理解がより深まることを期待しております。

本書をまとめるにあたり、国土交通省倉吉河川国道事務所、地元関係者の方々には、一方ならぬ御指導、御協力をいただきました。心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成19年3月

鳥取県埋蔵文化財センター

所長 久保 穰二郎

序 文

一般国道9号は、起点の京都府京都市から山口県下関市にいたる、総延長約691kmの幹線道路であり、西日本日本海沿岸地域の産業・経済活動の大動脈として、地域住民の生活と密着し大きな役割を果たしています。

このうち、国土交通省倉吉河川国道事務所は、東伯郡湯梨浜町から米子市（鳥取 島根県境）までの92.3kmを管轄しており、時代の要請に沿った各種の道路整備事業を実施しているところです。

東伯中山道路は、東伯郡琴浦町から西伯郡大山町にかけての、国道9号の渋滞緩和、荒天時の交通障害の解消、また、災害時の緊急輸送の代替道路確保、などを目的として計画された一般国道9号のバイパス（自動車専用道路）であり、鋭意事業に着手しているところです。

このルートには、多数の埋蔵文化財包蔵地がありますが、鳥取県教育委員会と協議を行い、文化財保護法第94条の規定に基づき、鳥取県教育委員会教育長に通知した結果、事前に発掘調査を実施し、記録保存を行うこととなりました。

平成18年度は、「梅田萱峯遺跡」、「笹津乳母ヶ谷第2遺跡」、「笠見第3遺跡」の3遺跡について鳥取県教育委員会と発掘調査の委託契約を締結し、鳥取県埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われました。

本書は、上記の「笹津乳母ヶ谷第2遺跡」の調査成果をまとめたものです。この貴重な記録が、文化財に対する認識と理解を深めるため、ならびに、教育及び学術研究のために広く活用されることを願うと同時に、国土交通省の道路事業が、文化財保護に深い関心を持ち、記録保存に努力していることをご理解いただければ幸いと存じます。

事前の協議をはじめ、現地での調査から報告書の編集にいたるまで御尽力いただいた鳥取県教育委員会の関係者に対して、心から感謝申し上げます。

平成19年3月

国土交通省 倉吉河川国道事務所
所 長 嘉 本 昭 夫

例 言

1. 本報告書は、国土交通省倉吉河川国道事務所の委託により、鳥取県埋蔵文化財センターが、一般国道9号（東伯中山道路）の改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査事業として、平成18年度に行った笹津乳母ヶ谷第2遺跡の発掘調査報告書である。なお、平成17年度にも鳥取県埋蔵文化財センターが同遺跡の発掘調査を実施しており、2年次目の調査である。
2. 本報告書に収載した遺跡の所在地および調査面積は以下の通りである。
笹津乳母ヶ谷第2遺跡：東伯郡琴浦町大字笹津字赤坂谷平1087 - 11外 調査面積8,914m²
3. 本報告書で示す標高は、2級基準点H10 - 3 - 13を基準とする標高値を使用した。方位は公共座標北を示す。なお、X：、Y：の数値は世界測地系に準拠した公共座標第 系 の座標値である。
4. 本報告書に掲載した地形図は、国土地理院発行の1/50,000地形図「赤碕」「伯耆浦安」、琴浦町（旧赤碕町）発行の「赤碕町都市計画図1」を使用した。
5. 本報告にあたり、鍛冶関連遺構の調査指導および出土鉄滓・鉄製品の整理指導をたたら研究会 穴澤 義功氏に依頼し、合わせて分析資料の分類及び観察表作成（第3章第4節）をお願いした。また、須恵器胎土分析について岡山理科大学自然科学研究所白石 純氏に玉稿を賜った。明記して深謝いたします。
6. 本報告にあたり、調査後航空写真撮影、調査前地形測量・基準点測量、調査後地形測量、炭化材年代測定・樹種同定、鉄関連遺物の金属学的分析を業者委託した。
7. 本報告書に掲載した遺構・遺物実測図の作成は、埋蔵文化財センター及び調査第一係（東伯調査事務所）で行い、調査担当者が作成したものを整理作業員が浄書した。なお、一部の遺構図の浄書、石器の実測・浄書を業者に委託した。
8. 本報告書で使用した遺構・遺物写真は調査担当者が撮影した。
9. 本報告書の執筆は小口 英一郎、瀧本 利幸が分担し、目次に文責を記した。
10. 発掘調査によって作成された図面・写真などの記録類、出土遺物は鳥取県埋蔵文化財センターに保管されている。
11. 現地調査および報告書作成にあたっては、下記の方々・機関に御指導・御協力いただいた。記して深謝します。（敬称略）
穴澤 義功、大澤 正己、佐伯 純也、琴浦町教育委員会

凡 例

1. 遺物の註記における遺跡名は「ノツ」を略号とし、合わせて「遺構名、遺物番号、日付」を記入した。

2. 本報告書で用いた遺構の略号は以下の通りである。

SI：竪穴住居跡 SS：段状遺構 SB：掘立柱建物跡 SD：溝 SK：土坑 P：柱穴・ピット

3. 本報告書で用いた遺物の略号は以下の通りである。

S：石器、J：玉類 丸数字：鉄製品・鍛冶関連遺物（第108図 鍛冶関連遺物構成 に対応）
記号のないものは土器・土製品・被熱粘土塊・焼成粘土塊

4. 遺構図・遺物実測図の縮尺については、特に説明のない限り以下の通りである。

竪穴住居跡・段状遺構・掘立柱建物跡：1/60 溝：1/80 土坑：1/40 柱穴・ピット：1/40
土器：1/4 石器・石製品：2/3、1/2、1/4 鉄製品・鉄滓：1/2

5. 遺構図・遺物図に用いたスクリーントーンおよび記号は、特に説明のない限り以下の通りである。

また、遺物実測図の断面は須恵器を黒塗り、鉄器、鉄滓等は斜線とし、それ以外のものは白抜きで示した。


 地山  貼床・石器被熱範囲  焼土・焼土面・赤彩土器  炭化物層

S：石器・石製品 J：玉類 ：土器 ：石器・石製品 ：鉄製品・鉄滓


6. 遺物観察表は出土遺構単位で章末に掲載した。表については以下の通りである。

(1) 法量記載における  は推定復元値、 は残存値を示す。


(2) 鍛冶関連遺物の法量は最大長、最大幅、最大厚を計測した。計測値は、鉄滓・鉄塊系遺物、羽口の場合、正位置の図の左右の長さ、上下を幅、横方向に展開したときの左右（縦方向の展開したときの上下）を厚さとし、鉄製品については錆を除いた長軸長を長さ、短軸長を幅としている。なお、本文・観察表の記述における遺物の各面の呼び方は102頁の凡例図の通りである。

磁着度は鉄滓分類用の「標準磁石」(TOKINフェライト磁石SR-3 寸法30×17×5mm)を用いて資料との反応を、6mmを1単位として数字で表現したもので、数値が大きいほど磁着度が強い。メタル度は小型金属探知機(TAJIMA PUP-M)によって判定された金属鉄の残留度を示すもので、基準感度は次の通りである。なお、対象物中に、かつて金属鉄が内包されていた資料で錆化してしまったものは、錆化()と表示する。

H()：Hは最高感度で小さな金属鉄(1～2.5mm)が残留することを示す。

M()：Mは標準感度でHの倍以上の大きさの金属鉄(4～5mm)が残留することを示す。

L()：Lは低感度でMの倍以上の金属鉄(10～12mm)が残留することを示す。

特L()：特Lは低感度でLの倍以上の大きな金属鉄(20mm以上)が残留することを示す。

なし：元から金属鉄が無かったもの。

椀形鍛冶滓の分類は以下の通りである。

特大：2000g以下

目次

序

序文

例言

凡例

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯..... (小口) 1

第2節 調査の経過と方法..... (小口) 2

第3節 調査体制..... (小口) 4

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境..... (湯村) 5

第2節 歴史的環境..... (湯村) 5

第3章 調査の成果

第1節 1区の調査成果..... (小口) 11

(1) 概要 11

(2) 基本層序 11

(3) 段状遺構 14

(4) 掘立柱建物跡 41

(5) 溝 43

(6) 土坑 43

(7) 土器溜り 46

(8) ピット 51

(9) 遺構外出土遺物 54

第2節 2区の調査成果..... (小口) 58

(1) 概要 58

(2) 基本層序 58

(3) 土坑 61

(4) 土器溜り 64

(5) ピット 66

(6) 遺構外出土遺物 69

第3節 3区の調査成果..... (小口・瀨本) 70

(1) 概要 70

(2) 基本層序 70

(3) 竪穴住居跡 71

(4) 掘立柱建物跡 84

(5) 土坑 85

(6) ピット 85

第4節 鍛冶関連遺物の考古学的観察	(穴澤・小口) 97
(1) 遺物の整理方法	97
(2) 調査の手順	97
(3) 遺物観察表の見方	97
(4) 鍛冶関連遺物の概要	98
出土遺物観察表.....	109
第4章 自然科学分析の成果	
第1節 笹津乳母ヶ谷第2遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査	
..... (九州テクノロジー・TACセンター・大澤正己・鈴木瑞穂)	118
第2節 笹津乳母ヶ谷第2遺跡出土須恵器の胎土分析	
..... (岡山理科大学自然科学研究所 白石 純)	135
第3節 笹津乳母ヶ谷第2遺跡出土試料の放射性炭素年代測定 ... (株式会社 古環境研究所)	141
第4節 笹津乳母ヶ谷第2遺跡における樹種同定	(株式会社 古環境研究所) 143
第5章 総括	
第1節 笹津乳母ヶ谷第2遺跡における鉄器・鉄生産の様相.....	(小口) 145
第2節 笹津乳母ヶ谷第2遺跡の集落構成と変遷.....	(小口) 150
第3節 まとめ.....	(小口・瀨本) 156
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

第1図 東伯中山道路ルートと関係遺跡位置図.....	1	第19図 SS6	20
第2図 調査地位置図.....	2	第20図 SS6 (a)・(b)変遷模式図	21
第3図 調査前地形測量図.....	3	第21図 玉類出土状況図.....	21
第4図 遺跡位置図.....	5	第22図 玉類出土状況模式図.....	22
第5図 周辺遺跡分布図.....	7	第23図 P153・SS6出土遺物 (1)	23
第6図 笹津乳母ヶ谷第2遺跡全体図.....	9・10	第24図 SS6出土遺物 (2)	24
第7図 1区遺構配置図.....	11	第25図 SS6出土遺物 (3)	25
第8図 1区北壁土層断面図 (1)	12	第26図 SS6出土遺物 (4)	26
第9図 1区北壁土層断面図 (2)	13	第27図 SS7	27
第10図 SS1	14	第28図 SS7鍛冶炉周辺遺物出土状況	28
第11図 SS1出土遺物	14	第29図 SS7鍛冶炉	28
第12図 SS2	15	第30図 SS7出土遺物 (1)	29
第13図 SS2出土遺物	15	第31図 SS7出土遺物 (2)	30
第14図 SS3	16	第32図 SS7出土遺物 (3)	31
第15図 SS4	17	第33図 SS7鍛冶炉周辺出土遺物	32
第16図 SS4出土遺物	17	第34図 鍛冶炉周辺微細遺物分布図.....	34
第17図 SS5	18	第35図 SS8	36
第18図 SS5出土遺物	18	第36図 SS8変遷模式図	37

第37図	SS8出土遺物(1)	37	第79図	3区遺構配置図	70
第38図	SS8出土遺物(2)	38	第80図	SI2	71
第39図	SS8出土遺物(3)	38	第81図	SI2出土遺物(1)	72
第40図	SS9	39	第82図	SI2出土遺物(2)	72
第41図	SS9出土遺物	39	第83図	SI3・4	73
第42図	SB12	40	第84図	SI3炭化材出土状況図	74
第43図	SB12出土遺物	40	第85図	SI3・4出土遺物(1)	75
第44図	SB13	41	第86図	SI3・4出土遺物(2)	75
第45図	SD1	42	第87図	SI7	76
第46図	SD1出土遺物	42	第88図	SI7出土遺物	76
第47図	SK16	44	第89図	SI9	77
第48図	SK17	44	第90図	SI9 甕172出土状況	78
第49図	SK17出土遺物	44	第91図	SI9出土遺物(1)	78
第50図	SK18	45	第92図	SI9出土遺物(2)	79
第51図	SK19	45	第93図	SI13	80
第52図	SK18・19出土遺物	45	第94図	SI13出土遺物	81
第53図	土器溜り1	46	第95図	SI14	82
第54図	土器溜り1出土遺物(1)	47	第96図	SI14出土遺物	82
第55図	土器溜り1出土遺物(2)	48	第97図	SI15・16・17	83
第56図	土器溜り1出土遺物(3)	49	第98図	SI16出土遺物	83
第57図	ピット(1)	50	第99図	SB14	84
第58図	ピット(2)	52	第100図	SB15	84
第59図	P146・150・151出土遺物	52	第101図	SK25	84
第60図	P153	52	第102図	SK26	84
第61図	遺構外出土遺物(1)	55	第103図	P167～180	86
第62図	遺構外出土遺物(2)	56	第104図	P181～202	88
第63図	遺構外出土遺物(3)	57	第105図	P203～219	90
第64図	2区遺構配置図	58	第106図	P220～226	92
第65図	2区北壁土層断面図	59	第107図	鍛冶関連遺物分類模式図	97
第66図	2区西壁土層断面図	60	第108図	鍛冶関連遺物構成図	100
第67図	SK20・21・23	61	第109図	鍛冶関連遺物計測位置凡例図	102
第68図	SK22	61	第110図	鍛造剥片3層分離型模式図	125
第69図	SK24	62	第111図	Fe-O系平衡状態図	125
第70図	SK24出土遺物(1)	62	第112図	FeO-TiO ₂ 二元平衡状態図	125
第71図	SK24出土遺物(2)	63	第113図	時期別の胎土比較 (K ₂ O-CaO散布図)...	137
第72図	土器溜り2	65	第114図	胎土分類別による胎土比較 (K ₂ O-CaO散布図)...	138
第73図	土器溜り2出土遺物	65	第115図	各遺跡ごとでの胎土比較 (K ₂ O-CaO散布図)...	138
第74図	ピット	66	第116図	笹津乳母ヶ谷第2遺跡出土須恵器の産地推定 (K ₂ O-CaO散布図)...	139
第75図	P162出土遺物	66			
第76図	遺構外出土遺物(1)	67			
第77図	遺構外出土遺物(2)	68			
第78図	遺構外出土遺物(3)	69			

第117図	胎土分類別による遺跡内での胎土の比較 (TiO ₂ -CaO散布図)...	139
第118図	胎土分析試料	140
第119図	構成資料個体数比(%)	147
第120図	鉄製品組成(%)	147
第121図	鳥取県における古墳時代 ～中世の鍛冶遺構	149

第122図	遺構配置図 (弥生時代後期～古墳時代前期)	151
第123図	遺構配置図 (古墳時代後期～奈良時代)	151
第124図	玉類材質別組成	154
第125図	玉類器種別組成	154

文中写真目次

写真1	粒状滓・鍛造剥片の顕微鏡組織	128	写真6	EPMA調査結果 反射電子像(COMP)・ 特性X線像および定量分析値	133・134
写真2	椀形鍛冶滓の顕微鏡組織	129	写真7	笹津乳母ヶ谷第2遺跡の炭化材	144
写真3	鉄製品(鑿・袋状鉄斧)の顕微鏡組織	130			
写真4	鉄製品(袋状鉄斧)の顕微鏡組織	131			
写真5	マクロ組織	132			

挿表目次

表1	鍛冶炉周辺微細遺物集計表	35	表19	笹津乳母ヶ谷第2遺跡3区出土土器観察表	114
表2	ピット計測表(1)	95	表20	笹津乳母ヶ谷第2遺跡3区出土土器観察表	115
表3	ピット計測表(2)	96	表21	笹津乳母ヶ谷第2遺跡出土有孔土玉観察表	115
表4	笹津乳母ヶ谷第2遺跡 鍛冶関連遺物一覧表	101	表22	笹津乳母ヶ谷第2遺跡出土有孔土玉観察表	116
表5	笹津乳母ヶ谷第2遺跡 鍛冶関連遺物分析資料一覧表	102	表23	笹津乳母ヶ谷第2遺跡出土土玉類観察表	116
表6	分析資料1	103	表24	笹津乳母ヶ谷第2遺跡出土石器観察表	117
表7	分析試料2	104	表25	供試材の履歴と調査項目	126
表8	分析試料3	105	表26	供試材の化学組成	126
表9	分析試料4	106	表27	出土遺物の調査結果のまとめ	127
表10	分析試料5	107	表28	笹津乳母ヶ谷第2遺跡出土須恵器分析試料の 胎土分析結果一覧表	137
表11	分析試料6	108	表29	胎土分析試料観察表	140
表12	笹津乳母ヶ谷第2遺跡鍛冶関連遺物観察表	109	表30	試料と方法	141
表13	笹津乳母ヶ谷第2遺跡鍛冶関連遺物観察表	110	表31	測定結果	141
表14	笹津乳母ヶ谷第2遺跡鍛冶関連遺物観察表	111	表32	笹津乳母ヶ谷第2遺跡における樹種同定結果	144
表15	笹津乳母ヶ谷第2遺跡1区出土土器観察表	112	表33	鍛冶関連遺物主要要素一覧表	147
表16	笹津乳母ヶ谷第2遺跡1区出土土器観察表	113	表34	鍛冶関連遺物一覧表	147
表17	笹津乳母ヶ谷第2遺跡1区出土土器観察表	114	表35	周辺遺跡の動向	153
表18	笹津乳母ヶ谷第2遺跡2区出土土器観察表	114	表36	古墳時代後期における東伯郡内玉類出土遺跡	154

図版目次

巻頭図版1	1. 遺跡遠景(南から) 2. 1区近景(東から)	巻頭図版4	1. SS7鍛冶炉・炉壁・羽口出土状況 (北東から) 2. SS7鍛冶炉土層断面(北から)
巻頭図版2	玉類出土状況	巻頭図版5	鍛冶関連遺物
巻頭図版3	1. 玉類集合(1) 2. 玉類集合(2)	巻頭図版6	1. SI9遺物出土状況(西から)

- 2 . SI9甕172出土状況 (西から)
- 3 . SI3炭化材検出状況 (東から)
- PL.1 1 . 1区北側完掘状況 (俯瞰)
- 2 . 1区南側完掘状況 (俯瞰)
- PL.2 1 . SS1完掘状況 (南から)
- 2 . SS1遺物出土状況 (東から)
- 3 . SS1土層断面 (北から)
- PL.3 1 . SS2完掘状況 (北から)
- 2 . SS2遺物出土状況 (東から)
- 3 . SS2土層断面 (北から)
- PL.4 1 . SS3完掘状況 (東から)
- 2 . SS3土層断面 (北から)
- PL.5 1 . SS4完掘状況 (東から)
- 2 . SS4遺物出土状況 (東から)
- 3 . SS4東西ベルト西側土層断面 (南から)
- 4 . SS4南北ベルト南側土層断面 (東から)
- 5 . SS4南北ベルト北側土層断面 (東から)
- PL.6 1 . SS5完掘状況 (東から)
- 2 . SS6完掘状況 (東から)
- PL.7 1 . SS6遺物出土状況 (1) (東から)
- 2 . SS6遺物出土状況 (2) (東から)
- 3 . SS6遺物出土状況 (3) (東から)
- 4 . SS6南北ベルト南側土層断面 (南東から)
- 5 . SS6南北ベルト北側土層断面 (東から)
- PL.8 1 . SS6東西ベルト西側土層断面 (南から)
- 2 . SS6東西ベルト東側土層断面 (南東から)
- 3 . 玉類出土状況 (第一面: 東から)
- 4 . 玉類出土状況 (第二面: 東から)
- 5 . 玉類出土状況 (第三面: 東から)
- 6 . 玉類出土状況 (最下面: 東から)
- PL.9 1 . SS7完掘状況 (南東から)
- 2 . SS7遺物出土状況 (南東から)
- PL.10 1 . SS7東西土層断面 (1) (南から)
- 2 . SS7東西土層断面 (2) (南から)
- 3 . 鍛冶炉周辺 (北東から)
- 4 . 鍛冶炉検出状況 (東から)
- 5 . 鍛冶炉完掘状況 (北から)
- 6 . SS7 鍛冶炉調査風景 (北西から)
- PL.11 1 . 鍛冶炉・炉壁・羽口出土状況 (北から)
- 2 . 鍛冶炉土層断面 (北から)
- PL.12 1 . SS8完掘状況 (東から)
- 2 . SS8遺物出土状況 (1) (東から)
- 3 . SS8遺物出土状況 (2) (東から)
- 4 . SS8遺物出土状況 (3) (東から)
- 5 . SS8須恵器坏48出土状況 (南から)
- PL.13 1 . SS9完掘状況 (東から)
- 2 . SB12・13完掘状況 (東から)
- PL.14 1 . SB12東西ベルト土層断面 (北から)
- 2 . SB12東西ベルト土層断面 (北から)
- 3 . SB12-P1土層断面 (北から)
- 4 . SB12-P1完掘状況 (北から)
- 5 . SB12-P2土層断面 (北から)
- 6 . SB12-P2完掘状況 (北から)
- 7 . SB12-P4土層断面 (北から)
- 8 . SB12-P4完掘状況 (北から)
- PL.15 1 . SD1完掘状況 (北から)
- 2 . SD1土層断面 (1) (北から)
- 3 . SD1土層断面 (2) (北から)
- 4 . SD1土層断面 (3) (北から)
- PL.16 1 . SK16完掘状況 (東から)
- 2 . SK16東西ベルト土層断面 (南から)
- 3 . SK16南北ベルト土層断面 (東から)
- PL.17 1 . SK17完掘状況 (南から)
- 2 . SK17遺物出土状況 (南から)
- 3 . SK17土層断面 (南から)
- PL.18 1 . SK18遺物出土状況 (北東から)
- 2 . SK18土層断面 (北東から)
- 3 . SK18完掘状況 (北から)
- 4 . SK19土層断面 (北から)
- 5 . SK19完掘状況 (北から)
- 6 . 玉類調査風景 (南東から)
- PL.19 1 . 土器溜り1遺物出土状況 (東から)
- 2 . 土器溜り1土層断面 (南から)
- 3 . 竈89出土状況 (北東から)
- 4 . 鋤先竈出土状況 (南東から)
- 5 . 須恵器75出土状況 (北東から)
- PL.20 1 . P142完掘状況 (南から)
- 2 . P143完掘状況 (南から)
- 3 . P144完掘状況 (南から)
- 4 . P145完掘状況 (南から)
- 5 . P146完掘状況 (南から)
- 6 . P147完掘状況 (北から)
- 7 . P148完掘状況 (北から)
- 8 . P149完掘状況 (南から)
- PL.21 1 . P150完掘状況 (北から)
- 2 . P152完掘状況 (東から)
- 3 . P153土層断面 (東から)
- 4 . P153甕型土器30出土状況 (東から)
- 5 . P154完掘状況 (東から)
- 6 . P155完掘状況 (東から)

- 7 . P157完掘状況 (東から)
- 8 . P158完掘状況 (東から)
- PL.22 1 . 2区完掘状況 (北東から)
- 2 . 2区西壁土層断面 (東から)
- PL.23 1 . SK20土層断面 (西から)
- 2 . SK20・P160完掘状況 (西から)
- 3 . SK21土層断面 (西から)
- 4 . SK21完掘状況 (西から)
- 5 . SK22土層断面 (西から)
- 6 . SK22完掘状況 (西から)
- PL.24 1 . SK23土層断面 (西から)
- 2 . SK23完掘状況 (西から)
- 3 . SK24東西ベルト土層断面 (1)(南から)
- 4 . SK24東西ベルト土層断面 (2)(南から)
- 5 . SK24遺物出土状況 (西から)
- 6 . SK24完掘状況 (西から)
- PL.25 1 . 土器溜り 2 遺物出土状況 (南東から)
- 2 . 土器溜り 2 土層断面 (南から)
- 3 . 土器溜り 2 完掘状況 (南西から)
- PL.26 1 . P159完掘状況 (南から)
- 2 . P161完掘状況 (南から)
- 3 . P162完掘状況 (南から)
- 4 . P163完掘状況 (南から)
- 5 . P164完掘状況 (南から)
- 6 . P165完掘状況 (南から)
- 7 . P166完掘状況 (南から)
- 8 . SS7調査風景 (南西から)
- PL.27 1 . 3区完掘状況 (南から)
- 2 . 3区完掘状況 (北から)
- PL.28 1 . SI2完掘状況 (東から)
- 2 . SI2東西ベルト土層断面 (北から)
- 3 . SI2南北ベルト土層断面 (東から)
- 4 . SI2遺物出土状況 (東から)
- 5 . SI2南壁炭化材出土状況 (北から)
- PL.29 1 . SI3完掘状況 (東から)
- 2 . SI4完掘状況 (東から)
- PL.30 1 . SI3焼土検出状況 (東から)
- 2 . SI3炭化材検出状況 (東から)
- PL.31 1 . SI3東西ベルト土層断面 (北から)
- 2 . SI3西壁垂木材検出状況 (東から)
- PL.32 1 . SI3検出状況 (東から)
- 2 . SI3焼土検出状況 (東から)
- 3 . SI3焼成粘土塊検出状況 (東から)
- 4 . SI3北西床面炭化材検出状況 (南から)
- 5 . SI3南西床面炭化材検出状況 (東から)
- 6 . SI3床面被熱礫検出状況 (東から)
- PL.33 1 . SI7完掘状況 (南から)
- 2 . SI7東西ベルト土層断面 (南から)
- 3 . SI7-P1土層断面 (西から)
- 4 . SI7-P2土層断面 (北西から)
- 5 . SI7-P3土層断面 (南東から)
- PL.34 1 . SI9完掘状況 (東から)
- 2 . SI9東西ベルト土層断面 (北から)
- 3 . SI9南北ベルト土層断面 (西から)
- 4 . SI9遺物出土状況 (西から)
- 5 . SI9甕172出土状況 (北西から)
- PL.35 1 . SI13完掘状況 (西から)
- 2 . SI13東西ベルト土層断面 (北から)
- 3 . SI13南北ベルト土層断面 (西から)
- 4 . SI13遺物出土状況 (西から)
- 5 . SI13-P1土層断面 (南から)
- PL.36 1 . SI14完掘状況 (北西から)
- 2 . SI14東西ベルト土層断面 (南東から)
- 3 . SI14南北ベルト土層断面 (西から)
- 4 . SI14床面検出状況 (西から)
- 5 . SI14-P1土層断面 (北西から)
- PL.37 1 . SI15・16・17完掘状況 (北西から)
- 2 . SI15・16・17検出状況 (東から)
- 3 . SI15・16・17北壁土層断面 (南から)
- 4 . SI15・16・17南壁土層断面 (北から)
- 5 . SI17炭化材検出状況 (東から)
- PL.38 1 . SB14完掘状況 (東から)
- 2 . SB14-P1土層断面 (東から)
- 3 . SB14-P2土層断面 (東から)
- 4 . SB15完掘状況 (東から)
- 5 . SB15-P1土層断面 (東から)
- 6 . SB15-P2土層断面 (東から)
- PL.39 1 . SK25土層断面 (南から)
- 2 . SK26土層断面 (北東から)
- 3 . SK26完掘状況 (北東から)
- 4 . P214完掘状況 (南から)
- 5 . P215完掘状況 (南から)
- 6 . P217完掘状況 (南から)
- PL.40 1 . P218完掘状況 (南から)
- 2 . P219完掘状況 (南西から)
- 3 . P220完掘状況 (南から)
- 4 . P221完掘状況 (東から)
- 5 . P221土層断面 (東から)
- 6 . P223土層断面 (東から)
- 7 . P224完掘状況 (南から)

- 8 . P225完掘状況（南から）
- PL.41 1 . P226完掘状況（南から）
 2 . 3区北東拡張区完掘状況（西から）
 3 . 3区北西拡張区完掘状況（東から）
 4 . 3区南東拡張区完掘状況（西から）
 5 . 3区南西拡張区完掘状況（東から）
 6 . 3区調査風景（南東から）
- PL.42 1 . SS1・2・4・5出土土器
 2 . SS2出土土器
 3 . SS5出土土器
 4 . SS6出土土器（1）
 5 . SS6出土土器（2）
- PL.43 SS6出土土器（3）
- PL.44 SS6出土玉類
- PL.45 1 . SS6出土玉類集合
 2 . SS6出土土器（4）
 3 . P153出土土器
 4 . SS6出土土器（5）
 5 . SS7出土土器（1）
- PL.46 SS7出土土器（2）
- PL.47 SS8・9出土土器
- PL.48 1 . SS8出土土器（1）
 2 . SS8出土土器（2）
 3 . SS8出土土器（3）
 4 . SS8出土土器（4）
 5 . SS8出土土器（5）
 6 . SS8出土土器（6）
 7 . SS8出土土器（7）
 8 . SS8出土土器（8）
- PL.49 1 . SB12、SD1、SK17・18、P146・150・154出土土器
 2 . SS9出土土器（1）
 3 . 土器溜り1出土土器（1）
 4 . SS9出土土器（2）
 5 . 土器溜り1出土土器（2）
- PL.50 土器溜り1出土土器（3）
- PL.51 土器溜り1出土土器（4）
- PL.52 1区遺構外出土土器（1）
- PL.53 SK24、P162、土器溜り2出土土器
- PL.54 1 . 土器溜り1出土土器（5）
 2 . 土器溜り1出土土器（6）
 3 . 土器溜り1出土土器（7）
 4 . 土器溜り1出土土器（8）
 5 . 1区遺構外出土土器（2）
 6 . 1区遺構外出土土器（3）
- PL.55 1 . 1区遺構外出土土器（4）
 2 . 1区遺構外出土土器（5）
 3 . 1区遺構外出土土器（6）
 4 . 2区遺構外出土土器（1）
 5 . 2区遺構外出土土器（2）
- PL.56 SI2・3・7出土土器
- PL.57 SI9出土土器（1）
- PL.58 SI9・13・14・16出土土器
- PL.59 SI13・14出土土器
- PL.60 1 . SI9出土土器（2）
 2 . SI2出土土器（1）
 3 . SI2出土土器（2）
 4 . SI3出土ミニチュア土器
 5 . SI9出土土器（3）
- PL.61 1 . 有孔土玉
 2 . 焼成粘土塊
- PL.62 1 . 小型剥片石器
 2 . 石錘（1）
- PL.63 石錘（2）
- PL.64 1 . 敲石（1）
 2 . 敲石（2）
- PL.65 1 . 台石
 2 . 砥石
- PL.66 鉄滓・鉄製品
- PL.67 鉄滓・鉄製品X線写真
- PL.68 1 . 鍛冶関連遺物（羽口、被熱粘土塊）
 2 . SS7鍛冶炉内出土炭化物
- PL.69 1 . SS7鍛冶炉内出土粒状滓
 2 . SS7鍛冶炉内出土鍛造剥片・鍛冶滓
 3 . 鉄床石・砥石

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

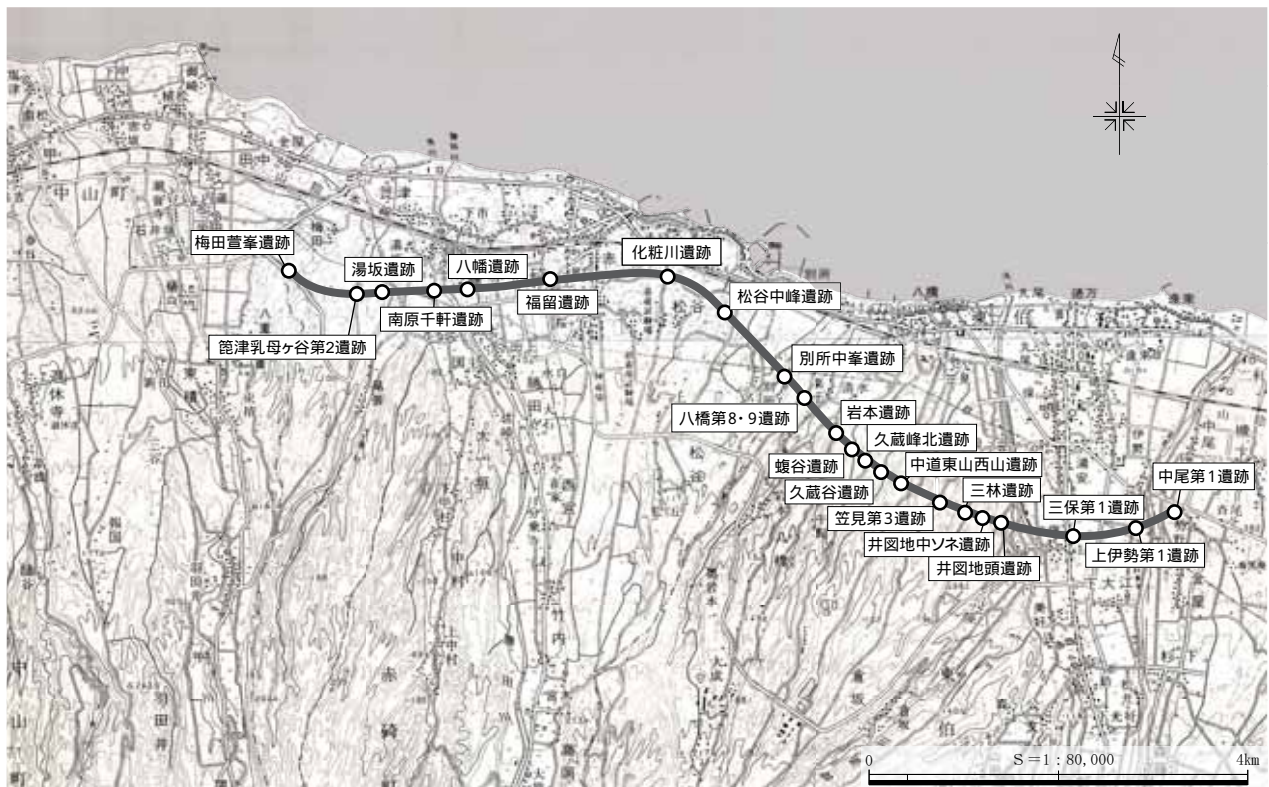
山陰地方を東西に貫く国道9号線は、交通混雑の緩和を図ることに加え、将来の国土幹線道路としての役割を果たすべく、山陰自動車道の整備事業が進められている。鳥取県中部地域では、東伯中山道路、北条道路、青谷羽合道路が自動車専用の高規格道路として計画され、一部供用開始された区間もある。

このうち東伯中山道路の計画地内には多数の遺跡があり、平成11年度からの地元教育委員会による試掘調査を経て、平成14年度から本格的な発掘調査が行われている。その延べ面積は平成18年度末現在で約215,000㎡となっている（第1図）。

笹津乳母ヶ谷第2遺跡は、平成11・15年度に赤碓町（現琴浦町）教育委員会による試掘調査が行われた（註1）。試掘調査では、弥生時代から古墳時代の土器とともに、竪穴住居跡や土坑が確認され、当該期の集落跡が広がっていることが予想された。

この結果を受けて、国土交通省倉吉河川国道事務所と鳥取県教育委員会が遺跡の取り扱いに関する協議を行い、文化財保護法に基づく手続きを経て、平成17年度から鳥取県埋蔵文化財センターが発掘調査を行った。

平成17年度は町道を挟んだ尾根部（1・2区）4,500㎡を調査し、弥生時代後期後葉の竪穴住居跡7棟、掘立柱建物跡3棟、古墳時代前期の竪穴住居跡2棟、掘立柱建物跡6棟、後期の竪穴住居跡4棟、掘立柱建物跡2棟などが検出され、当該期における集落景観の一端が明らかとなるなど貴重な成果が得られた（註2）。本調査によって、当初調査予定地外であった尾根の東西斜面部に良好な遺物包含層が存在することが確認されたため、町道下と合わせて3ヶ所、延べ8,914㎡を平成18年度に調



第1図 東伯中山道路ルートと関係遺跡位置図

査することとなった。

註1) 武尾 美則・石賀 太編2002『赤碕町内遺跡発掘調査報告書』赤碕町教育委員会
小泉 傑・石賀 太編2004『赤碕町内遺跡発掘調査報告書』赤碕町教育委員会

註2) 大川 泰広・濱本 利幸2007『鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書12 笹津乳母ヶ谷第2遺跡1』鳥取県埋蔵文化財センター

第2節 調査の経過と方法

(1) 調査区の名称

遺跡は町道梅田尾張線により東西に分断されていることから、調査の都合上、調査区を3区に分けた。このうち東側斜面部を1区、西側斜面部を2区とし、町道下を3区とした(第2図)。また、3区は南北両端部に東西方向26m、幅3mの張り出し部分が追加調査となったため、この範囲を3区拡張区とする。

(2) 調査の方法

遺跡を覆う表土は重機により除去し、遺構や遺物包含層などの掘り下げは人力で行った。調査により生じた排土は隣接地に仮置きした。

調査はグリッド法により行い、基準杭を公共座標第 系に基づき10m間隔で設定した。基準杭には南北軸には算用数字を東から、東西軸にはアルファベットを北からそれぞれ付した。

検出した遺構や遺物は、原則として光波トランシットにより記録した。出土遺物は時期判断が可能なものについては出土位置を記録し、それ以外は遺構またはグリッド毎に一括して取り上げた。写真撮影は35mm判と6×7判フィルムを使用し、適宜デジタルカメラにより補足した。

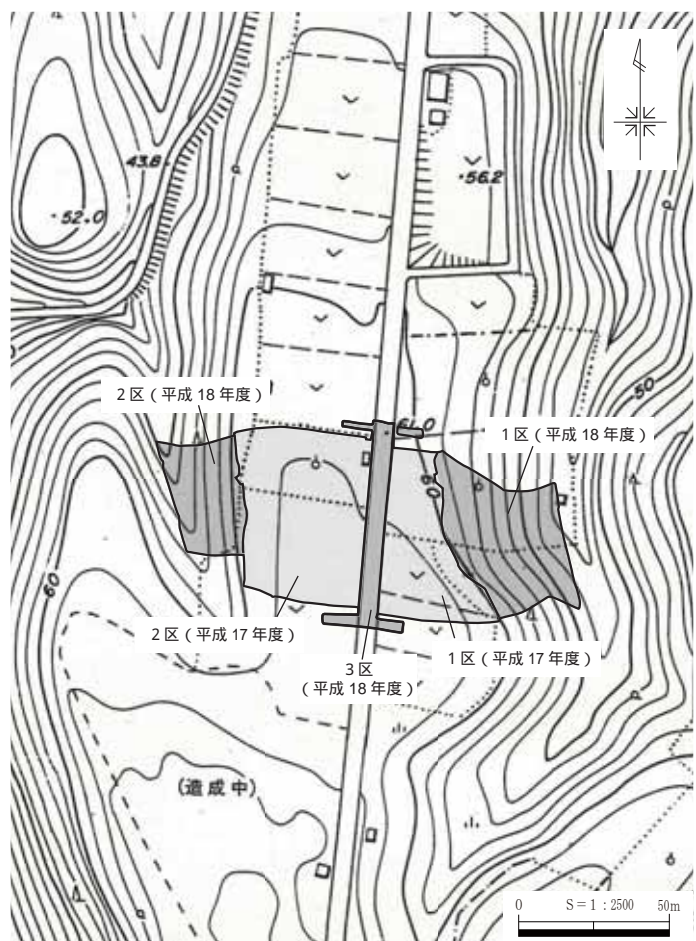
(3) 調査経過

【1区】1区は東西40m、南北53mの台形状範囲で、丘陵尾根の東側斜面部である。

平成18年5月30日に調査前地形測量・基準点測量の委託契約を締結し、調査を開始した。6月14日から20日にかけて表土剥ぎを行い、6月7日から7月4日に委託業者による現地での基準点測量及び方眼測量を実施した。

6月27日、休憩テントの設営や安全対策として周辺整備を開始し、7月4日から本格的な遺構検出作業に入った。

調査区は西から東の谷に向かって下り、



第2図 調査地位置図

谷から尾根部までの比高差は16mを測る。そのため地形の勾配が20～30度と大きく、安全面など考慮すると困難な調査になるであろうことが予想された。斜面中位にベルトコンベアーを設置し、斜面上方から下方に向かって包含層の掘り下げを行った。斜面部の調査は脚を踏ん張りながらの作業であり、約30cmの包含層を掘り下げるといった状況で、夏の暑さも加わり作業は困難を伴った。

調査区北半の斜面上方から中位では、弥生時代から古代に至る段状遺構9棟や溝1条、土坑4基が検出された。なかでも古墳時代後期の段状遺構床面から数珠繋ぎ状態の玉類が出土したことは注目される。また、斜面下方では、ほぼ同時期の羽口を伴う鍛冶炉が検出され、調査区南端では岩盤を掘削した状況で掘立柱建物跡が確認されるなど谷を望む斜面地利用のあり方を再考させる結果となった。

9月4日に掘り下げ作業が終了し、テント・発掘資材の解体・移動を行い8日に2区の調査を開始した。9月4日に委託業者による調査後地形測量、9月11日に航空写真撮影を行った。

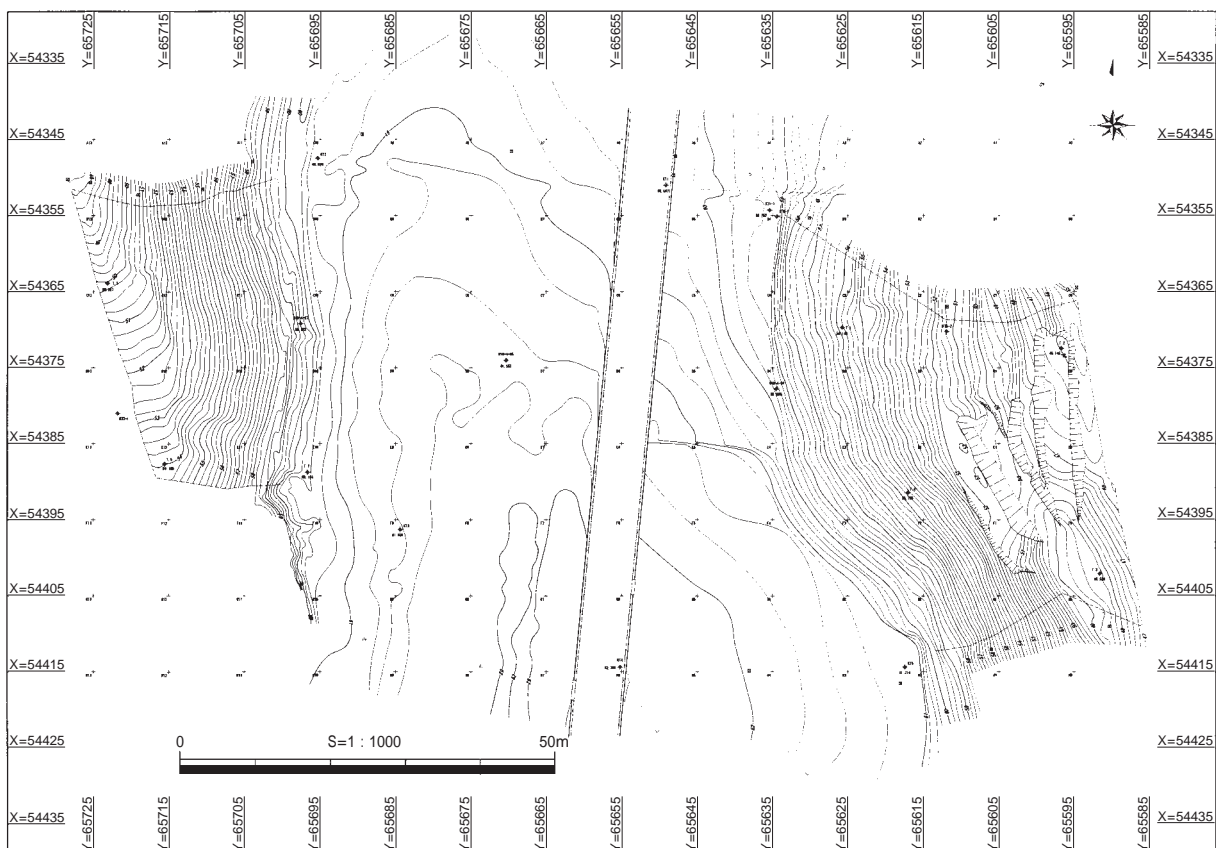
【2区】2区は東西28m、南北40mの台形状範囲で、丘陵尾根の西側斜面部が該当する。

平成18年6月20から26日に表土剥ぎ、8月4日に委託業者による現地での方眼測量を行っている。9月8日に1区からのテント移動や周辺整備を開始し、斜面上方から本格的な遺構検出作業に入った。

2区の包含層は比較的薄く、遺構密度も希薄で、弥生時代の落し穴1基や土坑4基、調査区北側で土器溜りが1ヶ所検出されたにすぎない。1区とは対照的に古墳時代から古代の遺構は認められなかった。

9月27日に掘り下げ作業が終了し、翌日調査地の全景写真撮影、その後補足測量調査を行って10月3日調査を終えている。

【3区】3区は東西7m、南北68mの町道下が調査区となっており、拡張区を含めるとH字状を呈し



第3図 調査前地形測量図

ている。尾根部平坦面であるため、比高差はほとんど無い。

町道迂回路敷設のため調査は10月半ばにずれ込み、表土剥ぎは17日に終了。10月19日に委託業者による現地での方眼測量を行い、本格的な遺構検出作業を開始した。

町道下であり包含層は削平されていたが、遺構の残存状況は比較的良好であった。

平成17年度調査で検出された遺構の続きが主に確認され、拡張区を含めると弥生時代後期後葉の竪穴住居跡10棟、掘立柱建物跡2棟、古墳時代前期初頭の竪穴住居跡2棟である。昨年度の続きである弥生時代後期後葉の建て替えを伴う焼失住居も確認され、炭化材などが良好に残存していた。

11月30日に掘り下げ作業を終了し、調査地の全景写真撮影を行った。12月1日に一部発掘資材の撤収、その後測量調査を行って12月12日に現地から撤収した。発掘調査報告書作成に伴う整理作業は、埋蔵文化財センター発掘事業室調査第一係（東伯調査事務所）で行った。

調査成果は、埋蔵文化財センターのホームページで速報的に紹介した。また東伯中山道路関係の発掘調査について紹介する「発掘調査だより」を作成し、琴浦町内の小中学校に毎月配布したり琴浦町報に遺跡紹介記事を掲載するなど、地元への普及啓発活動を行った。

第3節 調査体制

下記の体制で発掘調査・報告書作成を行った。

鳥取県埋蔵文化財センター

所	長	久保穰二郎	調査第一係
次	長	戸井 歩（兼総務係長）	係
総務係			長 湯村 功
			文化財主事 小口英一郎
副	主 幹	福田 高之	文化財主事 濱本 利幸
発掘事業室			調 査 員 築谷 具成
室	長	加藤 隆昭（兼調整係長）	
調	整	係	
文化財主事		濱 隆造	

調査日誌（抄）

6月7日	基準点測量（業者委託）	9月8日	1区補足測量開始（～19日）、2区遺構検出作業開始
6月14日	1区重機による表土剥ぎ開始	9月11日	1区航空写真撮影（業者委託）
6月20日	2区重機による表土剥ぎ開始	9月21日	SK20・23完掘
7月4日	方眼測量・杭打設（業者委託）	9月22日	SK22完掘、谷部包含層掘り下げ
7月6日	調査開始・遺構検出作業	9月25日	土器溜り完掘
7月13日	SD1完掘、SS5・9掘り下げ開始	9月27日	SK24完掘、包含層掘り下げ終了
7月28日	SK17完掘、SS6玉類出土	9月28日	2区全景写真撮影、補足測量調査開始
8月1日	SS1・2・3完掘、SB12・13掘り下げ開始 土器溜り検出	10月3日	2区調査終了
8月3日	SS4完掘、SS6掘り下げ開始	10月16日	3区重機による表土剥ぎ開始
8月4日	SS5完掘、2区方眼杭打設（業者委託）	10月19日	3区調査開始・遺構検出作業 方眼測量・方眼杭打設（業者委託）
8月8日	SS7検出・掘り下げ開始 SK23検出	10月22日	SI3・4・9・13検出
8月11日	土器溜り完掘、玉類取り上げ終了	11月13日	3区拡張部重機による表土剥ぎ
8月17日	SB12・13完掘	11月21日	SI9完掘
8月24日	SS7鍛冶炉検出	11月24日	SI14完掘
8月28日	SS6完掘、SS8掘り下げ開始	11月28日	SI17完掘、SI3炭化材取り上げ開始
8月31日	SS7完掘・鍛冶炉完掘	11月29日	SI15・16、SK26完掘
9月1日	SS9完掘、調査後地形測量（業者委託）	12月1日	SI3・4完掘、現場資材一部撤収・調査終了
9月4日	SS8完掘	12月12日	遺構測量調査終了・機材撤収完了

第2章 遺跡の位置と環境

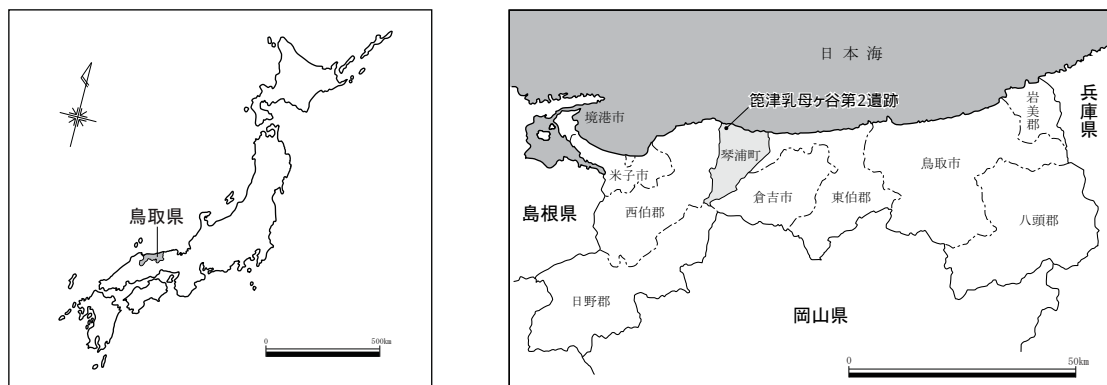
第1節 地理的環境

笹津乳母ヶ谷第2遺跡が所在する琴浦町は、鳥取県中部地域の西端に位置する。平成16年9月1日に東伯町と赤碕町が合併して新町として誕生した。県庁所在地の鳥取市からは西に約60km、県西部の商都米子市からは東に約35km離れている。町域は大山山麓から北に向かって広がる三角形で、東は北栄町、倉吉市と、西は大山町と、南は江府町と、北は日本海と接する。東西15.2km、南北18.5km、総面積は139.88km²を測る。平成18年12月時点の人口は、20,201人である。

地勢は、大山山麓から派生する急峻な丘陵地が北に向かうほど緩やかとなり、町内を南北に流れる加勢蛇川、洗川、勝田川などの流域に平野部が広がっている。海岸線は単調であるが、良好な漁場となっている。

町の産業は日本海沿岸部と山間部、その中間部にそれぞれ特徴がある。日本海沿岸部は国道9号線沿いを中心に、地酒、地ビール、和牛といった酒造や食品製造などの商工業が盛んである。また海岸部は赤碕港を中心とした沿岸漁場が有名である。中間部は県下有数の生産、販売高を誇る農業が盛んで、二十世紀梨は海外へも輸出されている。山間部は大山滝や南北朝期の動乱を描いた「太平記」の舞台となった船上山、国指定天然記念物の伯耆の大シイなどの風光明媚な自然に囲まれ、多くの観光客が訪れている。

笹津乳母ヶ谷第2遺跡は町の北西部、旧赤碕町域に位置する。日本海までは直線距離で約1kmである。大山北麓から派生する丘陵先端付近に立地し、標高は45mから61mを測る。



第4図 遺跡位置図

第2節 歴史的環境

ここでは琴浦町内を中心とした遺跡の概要を述べる。

旧石器・縄文時代 鳥取県下の旧石器資料は15遺跡で確認されており、位置づけがはっきりしない尖頭器類を含めても40遺跡を数えるに過ぎない。町内では三林遺跡(6)と梅田萱峯遺跡(22)でナイフ形石器の可能性のある資料が、笠見第3遺跡(7)で細石核の可能性のある資料が、本来の位置を遊離した状態で出土している。また水溜、松谷の両地点で槍先形尖頭器が採集されており、住吉第2遺跡(99)では有舌尖頭器が出土している。

縄文時代については、集落像を明らかにしうる調査例は少ない。早期のものとしては、赤坂後口山遺跡(93)、退休寺飛渡り遺跡(101)、上伊勢第1遺跡(2)で押型文土器が検出されている。中期

以前では、松ヶ丘遺跡(66)、森藤第1・2遺跡(37)、井岡地中ソネ遺跡(5)、井岡地頭遺跡(4)などで土器が出土している。後期段階では森藤第2遺跡と南原千軒遺跡(19)で石囲い炉をもつ竪穴住居跡が検出されている。森藤第2遺跡では、住居内から土器のほか土器片錘、打ち欠き石錘、土偶が出土している。南原千軒遺跡でも遺構外から土偶が出土しており、今朝平タイプの可能性が考えられている。仮にそうであれば、同タイプの日本海側における分布の西限例となりうる。このほか後期から晩期の遺跡として、八重第1遺跡(81)、八重第3遺跡(83)、小松谷遺跡(97)、下甲抜堤遺跡(96)がある。

弥生時代 当地域の弥生開始期の様相は明らかではない。前期から中期前半については、近年の低地部の調査でこの時期の集落の一端が見え始めている。上伊勢第1遺跡では前期の竪穴住居跡が3棟確認され、中尾第1遺跡(1)と三保第1遺跡(3)では同時期の配石墓や土壇墓などの墓域が調査されている。これらの遺跡は加勢蛇川を挟んだ沖積平野内の微高地上に近接して存在している。南原千軒遺跡は勝田川沿いの扇状地上に位置し、中期初頭の土器が大量に出土している。また中尾第1遺跡は中期中葉の集落でもある。

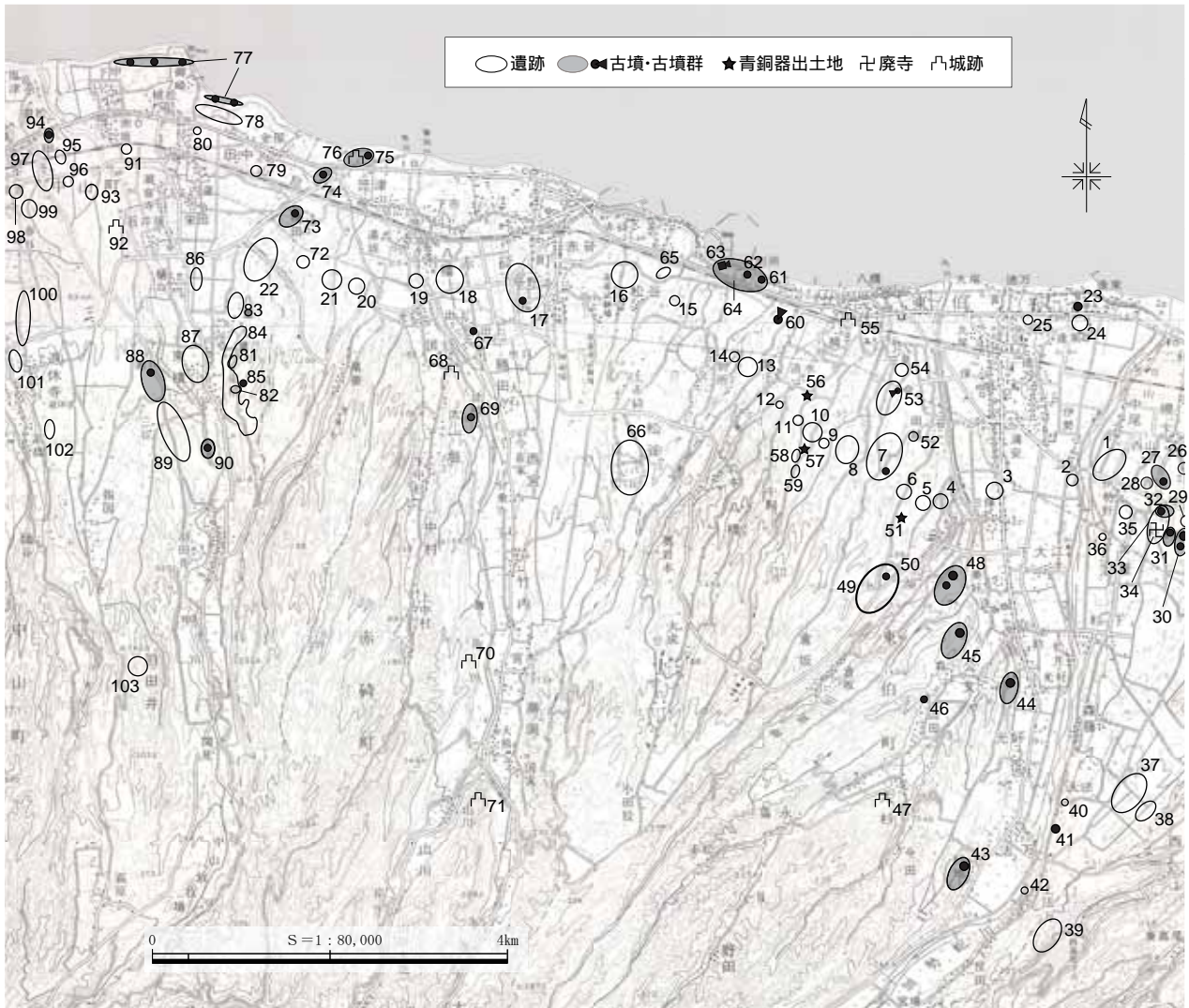
中期後半から古墳時代初頭にかけては、丘陵上を舞台として集落が大きく展開する。森藤第1遺跡、水溜り・駕籠据場遺跡、大峰遺跡(38)、井岡地中ソネ遺跡、三保遺跡(49)、笠見第3遺跡、三林遺跡、中道東山西山遺跡(8)、久蔵峰北遺跡(10)、福留遺跡(17)、笹津乳母ヶ谷第2遺跡(21)など枚挙に暇がない。梅田萱峯遺跡は中期後葉を中心とした遺跡で、未調査の範囲を含めると大規模な集落である可能性がある。住居内から磨製石剣の完存品も出土している。退休寺遺跡(100)も同じ時期で、竪穴住居をはじめ掘立柱建物、土壇墓が確認されている。住居内から分銅形土製品が出土し、柱を抜き取った柱穴内から甕が出土していることから、廃棄時の祭祀的行為が想定されている。多数の住居跡が調査された例から見ると、後期半ばから後半にかけて住居等が激増する様子が窺える。

各種生産に関しては、玉作遺跡の調査例が増えている。南原千軒遺跡では中期初頭から後期までの土器を含む溝から施溝分割技法による管玉素材が多数出土している。また軟質な石材を用いて板状素材から施溝分割する「西川津技法」と同様なものがある点も注目される。笠見第3遺跡、久蔵峰北遺跡では後期の玉作工房が検出されている。笠見第3遺跡では後期前半に属する管玉素材のひとつに島根県花仙山産の緑色凝灰岩が使用されていることが判明したほか、管玉の穿孔に鉄針が用いられていたことがわかる例もあった。笠見第3遺跡、久蔵峰北遺跡ともに後期段階では施溝分割は行わず、打撃分割によっている。笠見第3遺跡では赤色顔料が付着した石杵、石皿が多数出土している。

墳墓では墓ノ上遺跡(65)、別所女夫岩峯遺跡(61)で中期の木棺墓が見ついている。湯坂遺跡(20)では後期の小型の墳丘墓を増築した例があり、山陰地方では珍しい鉄石英製の管玉が副葬されていた。井岡地中ソネ遺跡では弥生時代終末から古墳時代初頭の区画溝を伴う土壇墓群が検出されている。

町内では銅鐸、銅矛、銅剣が出土している。八橋(56)では扁平鈕式銅鐸のほか、同一丘陵(57)で銅矛も見つかっている。また田越(51)では円墳の箱式石棺下30cmの位置から中細形銅剣が4本出土している。

古墳時代 町内には4基の前方後円墳がある。別所1号墳(笠取塚古墳、53m)(63)、八橋狐塚古墳(町史跡、62m)(60)、大塚古墳(34m)、竜ヶ崎3号墳(21m)(48)で、このうち前期に属すると思われるのは別所1号墳である。



1. 中尾第1遺跡、2. 上伊勢第1遺跡、3. 三保第1遺跡、4. 井岡地頭遺跡、5. 井岡地中ソネ遺跡、6. 三林遺跡、7. 笠見第3遺跡、8. 中道東山西山遺跡、9. 久蔵谷遺跡、10. 久蔵峰北遺跡、11. 雙谷遺跡、12. 岩本遺跡、13. 八橋第8・9遺跡、14. 別所中峯遺跡、15. 松谷中峰遺跡、16. 化粧川遺跡、17. 福留遺跡、18. 八幡遺跡、19. 南原千軒遺跡、20. 湯坂遺跡、21. 笹津乳母ヶ谷第2遺跡、22. 梅田萱峯遺跡、23. 達東双子塚古墳、24. 達東遺跡、25. 達東第2遺跡、26. 槻下豪族居館跡、27. 槻下古墳群、28. 下斎尾2号遺跡、29. 大高野遺跡、30. 大高野古墳群、31. 塚本古墳群、32. 斎尾古墳群、33. 下斎尾1号遺跡、34. 斎尾廃寺、35. 伊勢野遺跡、36. 金屋経塚、37. 森藤第1・2遺跡、38. 大峰遺跡、39. 西高尾谷奥遺跡、40. 大法古瓦出土地、41. 大法3号墳、42. 上法万経塚、43. 杉地古墳群、44. 下光好古墳群、45. 公文古墳群、46. 山田1号墳、47. 妙見山城跡、48. 竜ヶ崎古墳群、49. 三保遺跡、50. 三保6号墳、51. 田越銅剣出土地、52. 田越第4遺跡、53. 笠見第2遺跡・笠見1号墳、54. 笠見第1遺跡、55. 八橋城跡、56. 八橋銅鐻出土地、57. 久蔵峰銅矛出土地、58. 八橋第2遺跡、59. 八橋第4遺跡、60. 八橋狐塚古墳、61. 別所女夫岩峯遺跡、62. 別所2号墳、63. 別所1号墳(笠取塚古墳)、64. 別所古墳群、65. 墓ノ上遺跡、66. 松ヶ丘遺跡、67. 出上岩屋古墳、68. 條山城跡、69. 太一垣古墳群、70. 大仏山城跡、71. 山川城跡、72. 梅田所在遺跡、73. 梅田(栄田)古墳群、74. 坂ノ上古墳群、75. 笹津古墳群、76. 御崎古墳群、77. 御崎第1遺跡、78. 御崎第2遺跡、79. 田中川上遺跡、80. 御崎第2遺跡、81. 八重第1遺跡、82. 八重第2遺跡、83. 八重第3遺跡、84. 八重第4遺跡、85. 岩屋平ル古墳、86. 樋口第1遺跡、87. 樋口第2遺跡、88. 三谷古墳群、89. 三谷遺跡、90. 束積古墳群、91. 赤坂大五輪塔、92. 岩井垣城跡、93. 赤坂後口山遺跡、94. 曲松古墳群、95. 林之峯遺跡、96. 下甲坂堤遺跡、97. 小松谷遺跡、98. 住吉第1遺跡、99. 住吉第2遺跡、100. 退休寺遺跡、101. 退休寺飛渡り遺跡、102. 退休寺第1遺跡、103. 羽田井遺跡

第5図 周辺遺跡分布図

中期から後期にかけては群集墳が築かれる。大高野古墳群(30)、塚本古墳群(31)、斎尾古墳群(32)、公文古墳群(45)、竜ヶ崎古墳群(48)、別所古墳群(64)、笹津古墳群(75)、坂ノ上古墳群(74)、梅田古墳群(73)などである。大高野3号墳では金銅製耳環、青銅製鈴、鉄刀などが副葬されていた。

中期後半の高塚古墳は現在は消滅しているが、朝顔形埴輪、形象埴輪などが出土している。後期以降採用される横穴式石室には、大法3号墳(41)、三保6号墳などのように竪穴系横口石室と呼ばれる構造をもつものがある。槻下古墳群(27)、大高野古墳群、塚本古墳群、斎尾古墳群など後続する石室形態もその系譜に連なるものであることから、加勢蛇川流域に石室形態を同じくする集団が存在したことを示している。終末期に属すると思われる切石積石室は山田1号墳(町史跡)(46)、出上岩屋古墳(県史跡)(67)に認められる。

集落の様相は不明な部分が多い。三保遺跡、上伊勢第1遺跡、笠見第3遺跡、蝮谷遺跡(11)、三林遺跡、久蔵峰北遺跡、中尾第1遺跡、三保第1遺跡、松谷中峰遺跡(15)、井囷地中ソネ遺跡、別所中峯遺跡(14)、八重第3遺跡、住吉第2遺跡など集落遺跡の調査例は多いが、実態は必ずしも明らかではない。そのような中で注目されるのは笠見第3遺跡と八橋第8・9遺跡(13)である。笠見第3遺跡では今のところ県内最古例となる中期末の鍛冶炉が検出された。鉄床石や羽口など鍛冶関連遺物も出土している。八橋第8・9遺跡では6世紀から7世紀代の竪穴住居跡23棟などが調査されたほか、椀形鍛冶滓なども出土しており、報告では出土した土器に基づき、集落動態の解明に取り組んでいる。笹津乳母ヶ谷第2遺跡では丘陵斜面を造成した段状遺構が、古墳時代後期から奈良時代にかけて多数築かれている。そのうち1棟は鍛冶炉を伴っていた。

古代 町内には山陰地方唯一の国特別史跡である斎尾廃寺(34)がある。金堂や塔、講堂跡が残り、これらを取り囲む土塁状の高まりも存在する。伽藍配置は法隆寺式である。斎尾廃寺が位置する加勢蛇川右岸は伯耆国八橋郡の中心地であったと推定され、近くには出土した炭化米を根拠に正倉または郷倉と考えられる総柱礎石建物群がある大高野遺跡(29)や伊勢野遺跡(35)、水溜り・駕籠据場遺跡といった掘立柱建物群や墨書土器を伴う遺跡がある。やや南には墨書土器や金属器写しの須恵器が出土した森藤第1・第2遺跡、大法古瓦出土地(40)がある。このほか、旧笹津郷に位置する八幡遺跡(18)では掘立柱建物群や赤色塗彩土師器が多数出土している。田中川上遺跡(79)では埋没河川が確認され、その川辺の一部から須恵器や赤色塗彩の土師器が集中して投棄された状態が検出されており、川辺での祭祀行為が想定されている。

墳墓の関係では、笠見第3遺跡と三林遺跡で火葬墓が見ついている。笠見第3遺跡では土坑を掘り蔵骨器と考えられる土師器坏と火葬骨を木櫃に納めていた。三林遺跡では土坑を掘った中に石槨を設け、その中に土師器を組み合わせた蔵骨器に火葬骨を納めていた。金屋(36)と上法万(42)では経塚が見つかり、金屋では銅経筒が納められていた。

生産関係では、上伊勢第1遺跡で9世紀から13世紀と考えられる畠跡が見つかり、中道東山西山遺跡では9世紀代に位置づけられる鍛冶炉などの鉄関連遺構や遺物が検出されている。

中世 南原千軒遺跡では平安後期の鍛冶関連遺構や遺物が大量に出土した。鍛冶炉や廃棄土坑のほか鉄滓や鍛造剥片などの微細遺物も豊富で、鉄素材から製品まで生産していたと考えられる。

井囷地頭遺跡では平安時代末頃の方形区画溝が検出されている。内部には道路状の硬化面や礎石とおぼしき礫があり、居館跡の可能性もある。槻下館跡(町史跡)(26)は40m四方の主郭のほか、周囲に土塁や壕を巡らせた郭をもつ複郭式と考えられる。鎌倉時代に岩野弾正の居城であったと伝えられるが詳細は不明である。

町南部には標高615mの船上山がそびえる。ここには南北朝期に後醍醐天皇が隠岐から逃れた行宮跡(国史跡)がある。赤碕港から船上山にかけては、鎌倉末期と推定される、宝塔と宝篋印塔の二様式を合わせもつ独特の形態の赤碕塔(県保護文化財)があることでも知られている。

中世城館は町内各地に見られる。南北朝期に西伯耆で勢力をもっていた行松氏が築城し、後に毛利氏が支配し伯耆の経営拠点となった八橋城跡(町史跡)(55)、天正年間の築城と考えられる妙見山城跡(47)、土塁と堀が残る町史跡の笹津城(槇城)跡(76)のほか、條山城跡(68)、大仏山城跡(70)、山川城跡(71)がある。

